

## 学生向けCST養成プログラム（CST-G1）の授業内容

対象	授業名	必修:○	内容	備考
学生	CST教材研究(指導論)	○	安全を含む実践的小中学校理科実験指導法	授業日数:4日
学生	CST理科教育法Ⅰ(理科内容論)	○	小中高から大学までの理科の授業内容の研究と総合的な関連付け、および理科カリキュラムの構造研究	授業日数:5日
学生	CST教材開発(教材開発論)	○	小中学校理科教材の改善の工夫について実例から学ぶ。(ここで学んだことを題材にして模擬授業を行う。)	授業日数:2日 模擬授業と連携して開講
学生	CST理科教育法Ⅱ(学生用)	○	小中学校で行われている理科授業の実例や自由研究、課題研究の指導の実例などから、探求型、課題解決型指導法を学ぶ。	授業日数:1.5日
学生	CST教育実習Ⅰ	-	研究授業や研究発表会への参加を通して、実践的な理科の指導方法を学ぶ。参加レポートを提出する。	授業日数:2.5日 不定期
学生	CST教育実習Ⅱ	○	CST-G2などすぐれた理科教員のいる教育現場で、実践的な指導力を身に付ける。教育実習日誌と指導案を提出する。	修了日数:10日 受講生による学校現場での実習2年目に実施
学生	模擬授業	○	模擬授業を実施し、教員および参加学生からの評価を受け、CSTとしての授業力向上を図る。	授業日数:1日 CST教材開発と連携して開講 2年目に実施
学生	野外体験実習(学生用)	○	野外の自然の事物の観察の方法、指導法を学ぶ。	授業日数:5日 不定期 一日単位で受講することが出来る。
学生	小中学校「理科」研修	-	科学館・博物館を利用した研修方法を学ぶ。 小中学校の理科授業の評価方法を学ぶ。	講義(1日)+現場実習(3日)
現職/ 学生	理科研修企画演習	-	ニーズに応じた理科研修の企画、運営方法について	0.5日 大阪府教育センターでの講義
現職/ 学生	サイエンスコミュニケーション演習	-	現代的な理科教育の関連する話題を取り上げ、児童生徒に説明する工夫を行う。	0.5日 大阪府教育センターでの講義

- 1) 全ての必修授業科目の授業を受講し(E-ラーニングを含む)、担当教員の口頭試問あるいはパフォーマンステスト等に合格すること。
- 2) 小中学校現場での教育実習に参加し、必要な提出物(実習記録、授業計画)を受理されたもの。
- 3) 上記1)および2)の資料をOCN(大阪府コア・サイエンス・ティーチャー・ネットワーク)に登録し、その資料を大阪府CST協議会が審査し、認定する。
- 4) プログラムの修了には、30日程度の受講が必要(1日=6時間)